

林 重雄<sup>1</sup>：愛知県田原市に発芽したニッパヤシの果実の漂着Shigeo HAYASHI<sup>1</sup> : Fruit of *Nypa fruticans* Wurm, stranded on the beach of Tahara City, Aichi Prefecture, Japan

ニッパヤシ *Nypa fruticans* Wurm は、ヤシ科の植物で、インド、マレーシア、ミクロネシアに分布し、他の熱帯地域でも植栽されてきた (Gunn and Dennis 1976)。また化石でもブラジル、アメリカ合衆国、イタリア、ロシア、ニュージーランドと広範囲から産出している。その広範囲な分布は漂流によるものと考えられている (Gunn and Dennis 1976)。日本では沖縄県の西表島で自生が確認されているが、絶滅危惧 IA 類に指定されている (沖縄県ホームページ)。本種の日本国内への漂着は日本海側で秋田以南、太平洋側で千葉以南から記録がある。1975年には福岡県で大量漂着している (石井 1999; 中西 1999)。愛知県では1979年に常滑市で大量漂着の記録がある (中西 1981)。近年では2012年に5個体、2016年に5個体、2017年に1個体、2019年に2個体の漂着がある (林 2020)。これまでに本州におけるニッパヤシの果実の発芽状態での漂着記録はあるが枯死したものがほとんどである (中西 1983)。

渥美半島に位置する田原市の太平洋側には砂浜海岸が連続し、豊橋市との境界から伊良湖岬までは、東西約30kmになる (田原市 2008)。太平洋に面する海岸一帯は、初夏から秋にかけ漂着物が打ち上げられるシーズンとなり (林 重雄ブログ)、定期的な漂着物調査を行っている。今回、本州中部の愛知県田原市の海岸で発芽したニッパヤシの果実の漂着を確認したので、ここに報告する。

## 漂着記録

筆者は2020年9月5日、愛知県田原市谷ノ口と赤羽根西 (図1) で漂着物の調査中に発芽したニッパヤシの果実の漂着を確認した。

当日午前10時の天候は晴れ、最寄の伊良湖岬のデータによれば気温28.9℃、西北西の風、風速2.1m/sであった (気象庁ホームページ)。果実は当日の高潮線上に、他の点状する漂着物と一緒に漂着していた。当地は8月末に発生し、9月2日に九州西岸を通過した台風9号と、9月1日に発生した台風10号が接近中で (気象庁ホームページ)、海は荒れ、うねりも強く、この時に打ち上げられたものと推測できた。

谷ノ口で採集した果実の長径は115mm、短径は66mm、厚みは44mm、芽は120mmで、赤羽根西で採集した果実の長径は123mm、短径は97mm、厚みは56mm、芽は144mmであった (図2)。果実の表面の色彩は、暗褐色から黒色を呈しており、平滑であった。発芽部は黄緑色を呈しており、光沢も見られた。また表面には小型のカルエボシの付着が見られた。

種子の漂着した地域で同時に打ち上げられていたものは、ゴバンノアシ、サキシマスオウノキ、テリハボク、ミフクラギ、ココヤシ、ハウガンヒルギ、サガリバナ、アダン、ククイノキ、ワニグチモダマ、ハスノミカズラなど、いずれも熱帯起源の果実と種子であった。

## 考察

今回の漂着果実は淡水に果実の半分ほどを浸して発根を待った。谷ノ口で採集した果実は芽が茶褐色になり枯れてしまった。赤羽根西で採集した果実は10日後の9月15日に

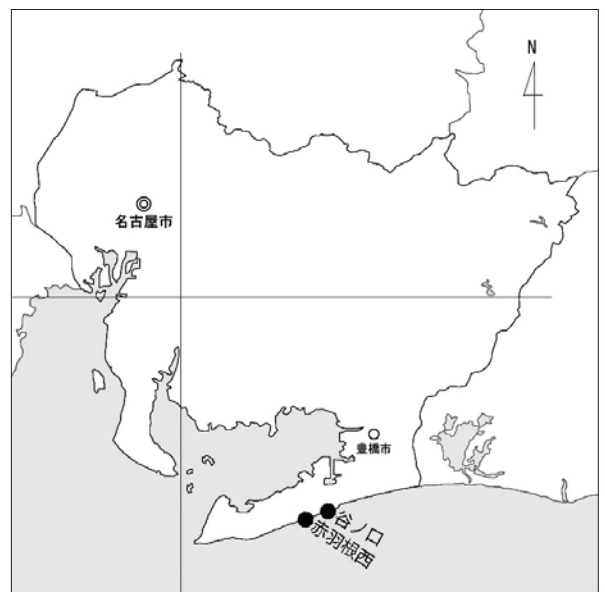


図1 愛知県田原市谷ノ口と赤羽根西の位置



図2 田原市に漂着した発芽したニッパヤシの果実 右が谷ノ口で採集したもの、左が赤羽根西で採集したもの

2本の発根を確認した。2ヶ月後の11月5日には発根が3本となり、最長の根は46mmにまで成長した。その後25°Cの水温を保つ先行事例(茨木 2017)を参考にヒーターで保温を続けたが、2021年1月末には芽や根が茶褐色になり枯れてしまった。

こうした発芽状態のままの果実の漂着は、漂流期間が短いことが理由にあげられる。このような事実から、2020年8月後半から9月初めにかけては、緑色を保ったオオバヒルギの胚軸の漂着やギンカクラゲの大量漂着もあり(林 2020)、漂流物を移動させる強い黒潮の流れがあったものと考えられる。同じタイミングで漂着した熱帯起源の果実の多さは、それに加えて8月末に発生した3つの台風(気象庁過去の台風資料)によるうねりや風が漂着に強い影響を持ったと考えられる。

謝辞：北海道教育大学札幌校の鈴木明彦教授には、粗稿を見ていただいた。二名の査読者には論文の改善に関わご指摘をいただいた。ここに記してお礼申し上げる。

### 引用文献

- Gunn, C. R. and Dennis, J. V. 1976. World guide to tropical drift seeds and fruits. 240pp. Quadrangle, New York.
- 林 重雄. 2020. 愛知県における熱帯起源の漂着果実と種子. 漂着物学会誌. 18: 1-5.
- 林 重雄. 2020. 愛知県田原市にオオバヒルギ果実の漂着. 漂着物学会誌. 18: 47.
- 林 重雄ブログ. Beachcomber's Logbook (<http://beachcomb.exblog.jp/>) (2021年4月25日閲覧)
- 茨木 靖. 2017. 浜辺で拾ったニッパヤシを育てたいのですが?. 徳島県立博物館ニュース. 108: 7
- 石井 忠. 1999. 新編・漂着物事典. 380pp. 海鳥社, 福岡.
- 気象庁ホームページ. (<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>) (2021年4月25日閲覧)
- 気象庁過去の台風資料. ([https://www.data.jma.go.jp/fcd/yocho/typhoon/route\\_map/index.html](https://www.data.jma.go.jp/fcd/yocho/typhoon/route_map/index.html)) (2021年4月25日閲覧)
- 中西弘樹. 1981. 日本における熱帯果実の漂着記録. 植物地理・分類研究. 29-1: 67-69.
- 中西弘樹. 1983. 熱帯植物の散布体の漂着-2. 海洋と生物25 vol.5-No.2: 119-123
- 中西弘樹. 1999. 漂着物学入門. 211pp. 平凡社, 東京.
- 沖縄県ホームページ. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(レッドデータおきなわ)第3版-菌類編・植物編- (<https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/documents/ikansokusyokubutsu.pdf>) (2021年4月25日閲覧)
- 田原市 2008. たはらの海辺の博物誌. 95pp. 田原市, 愛知.

(Received May 10, 2021; accepted June 18, 2021)

<sup>1</sup> 〒486-0844 愛知県春日井市鳥居松町3-155

<sup>1</sup> 13-155 Toriimatsu-cho, Kasugai City, Aichi 486-0844 Japan